

YOZAN

WiMAX活用し広域無線LAN網を構築 音声・データの定額サービス提供



YOZAN
代表取締役社長
A 取直 氏

通信インフラの取得当初から狙っていた音声・データ通信定額サービスの実現に向け、YOZAN(鷹山)の動きがいよいよ本格化してきた。首都圏エリアを面でカバーする広域無線LAN網の構築計画が、具体的に稼働し始めたのだ。キーとなるテクノロジーは「WiMAX」だ。



無線IP携帯電話のイメージ図

「WiMAXでいくことを決断しました。開口一番、a 取社長はこう明かした。YOZANは今、無線LANインフラによる音声・データ通信の定額サービスを準備している真っ最中だ。その基盤となる無線技術にWiMAXを採用する。

WiMAXとは、IEEE802.16委員会で標準化作業が進められている無線技術である。Wi-FiがLAN向けであるのに対し、WiMAXはMAN(メトロポリタンエリアネットワーク)向けだ。すでに標準化が完了した802.16-2004は、半径約6~10kmのエリアをカバーでき、伝送速度は最大75Mbps(バンド幅20MHz)。また、標準化作業が進行中の16eは半径約2~4km、最大1Mbps(バンド幅5MHz)のスペックを持つ。前者は固定通信用、後者は移動通信用と、想定する利用形態が異なっている。

通信関係者の間で、WiMAXへの関心が急速に高まっているのは、既存の通信ビジネスを一変させる可能性を秘めているからだ。たった1つの基地局で数kmをカバーするブロードバンドインフラが構築できるのだ。a 取社長は「3G携帯電話を豪華列車とすると、WiMAXはリニアモーターカー。携帯電話への新規参入が話題ですが、その間に当社は次世代サービスに一番乗りします」と話した。

アステル東京の事業を買収して以降、YOZANが歩んできた道のりは、決して平坦ではなかった。だが本事業を離陸させるために、この過程は不可欠なものだった。

世界標準規格のWiMAXを活用すれば、低コストで広域無線ブロードバンドイ

ンフラを構築できるが、問題はどのようにして基地局の場所を確保するかだ。アステル東京の買収により、YOZANは安価に首都圏4万2000のPHS基地局を手に入れた。PHS基地局にWiMAXと802.11などを併設すれば、一気にカバーエリアを広げられる。

実証実験は今年6月からスタートの予定。サービスインは12月を計画している。WiMAXへの周波数配分はまだのため、当初はWiMAX準拠という可能性もあるが「最初から東京23区を面でカバーします」という。

IP携帯の開発者を募集中

本事業の成功のカギを握る要素として忘れてならないのは端末の完成度だ。準備は着々と整いつつある。2月1日、新たに「技術開発本部」を設立。さらに本部長兼CTOとして、ソニー木原研究所前社長の小松宏輔を招き、体制を整えた。

あと必要なのはサービス開始の実現に向けて戦力となる人材の強化である。そこでYOZANはシステム設計やLSI開発プロジェクトの推進が出来るエンジニア・企画営業担当者・総務省対応担当者を募集中だ。a 取社長は「新しい通信の形を自ら切り拓こうという意欲を持った人にぜひ来てもらいたい」と話している。

採用に関するお問い合わせ

株式会社YOZAN

<http://www.yozan.co.jp/recruit>

採用情報の詳細については上記URLをご覧ください

tel : 03-4386-4536